

2023年5月

■今月の特選句

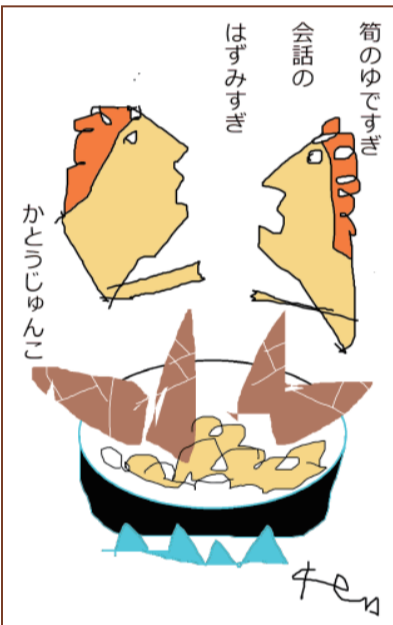
行先は
俺も桜も
同じ土
木村
浩



行先は俺も桜も同じ土

木村 浩

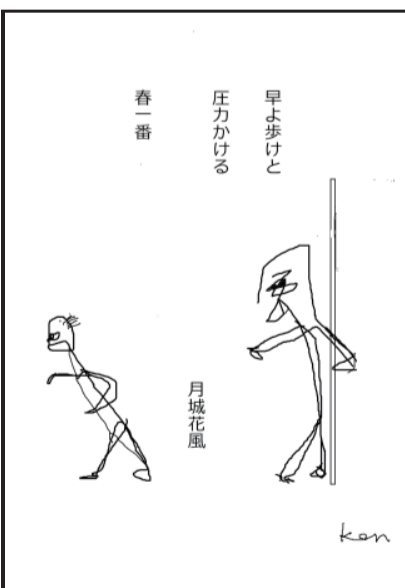
この句には哲学がある。哲学とは人間とは何かを考える学問である。この句を表題にして、新しい切り口の哲学論文を書いてみてはどうだろうか。



筍のゆですぎ会話はずみすぎ

加藤潤子

原因と結果の句のようにも見えるが、どちらが原因なのか曖昧なところが可笑しい。原因は、筍と会話の双方にあり、同時進行と考えよう。

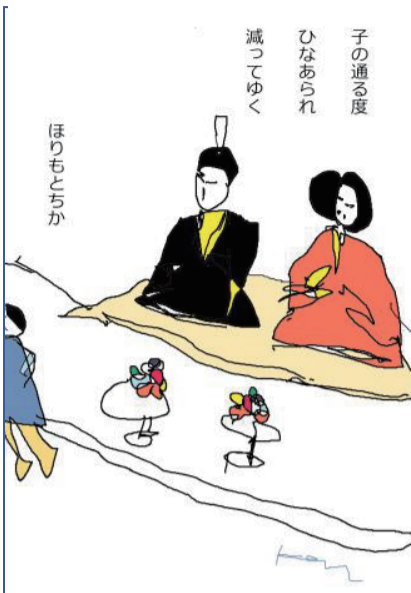


早よ歩くと圧力かける春一番

月城花風

春一番の特徴をよく捉えている。春一番は、強風のトップバッターとしての誉れを鼻にかけているのだ。さっさと歩けとは余計なお世話だね。

■今月の特選句



子の通る度ひなあられ減ってゆく

ほりもとちか

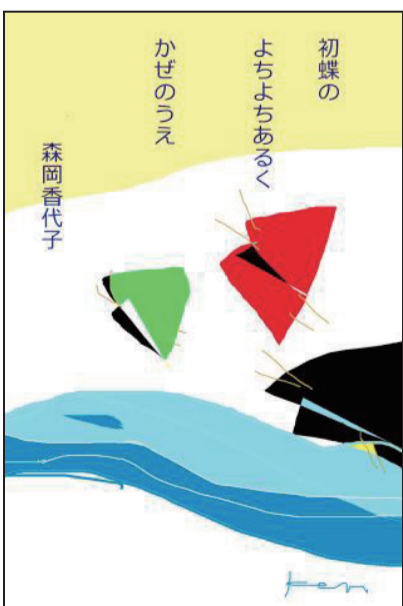
あられの山が少しずつ小さくなっていく。犯人は特定されているが、気が付いていない振りでそっと足す。犯人はバレているとは知らずまた犯行を。



「手を焼く」は火傷にあらず山笑ふ

荒井 類

「手が後ろに回る」「腕が上がる」「指をくわえる」など、字義通りの意味とは違う意味をもつ言葉がたくさんある。日本語の魅力の一つである。



初蝶のよちよちあるくかぜのうえ

森岡香代子

俳句では、まだ誰も使っていない、全く新しい表現が見事にできた時、「お手柄です」などと褒められる。「蝶が風の上を歩く」という発見がそれだ。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

左手は猫の手にして春キャベツ切る
 ・・・ゆびを切らない包丁づかい

寿命秀次

よく喋る口をもちより百千鳥
 ・・・なに言つてるかわからないけど

日根野聖子

四月馬鹿愚者が賢者を煙にまき
 ・・・賢者はわざと巻かれたふりか

青木輝子

小春風麩屋の暖簾のふふふふふ
 ・・・お酢の店ならすすすすすす

久松久子

つんつんと音の芽吹きや通学路
 ・・・早く帰らにや塾に遅れる

山本 賜

婆の眼はさながら忍者土筆摘む
 ・・・隠れ上手の土筆逃さず

西野周次

花吹雪落ちてたちまち花筏
 ・・・花びらどれも変はり身早し

梅野光子

翔平をスマホで観つつ目刺焼く
 ・・・ひろみさんとて二刀流だね

井野ひろみ

懐の深さに甘え卒業す
 ・・・卒業をしてもらわにや困る

柳 紅生

夏の海孫にはなくて種痘痕
 ・・・僕もつけると孫が困らす

長井知則

さくら咲く土手へ土手へと足弾む
 ・・・慌てすぎると土手んとこける

井口夏子

ひらひらの蝶追うスカートひらひら
 ・・・蝶とスカート似たやうなもの

永易しのぶ

石を蹴る退屈の子に春日差
 ・・・それを観てゐる親の退屈

名本敦子

■今月の滑稽句

* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

花どきや昼から雨になる予報	相原共良
花万朶こおどりにはしゃぐ鳥	相原共良
万愚節うそと見抜けぬえそらごと	相原共良
難解の講義にうとうと目借り時	青木輝子
雑魚だってオンリーワンだよ春の星	青木輝子
戦いに敗れし軍鶏は鍋にされ	赤瀬川至安
教養に邪魔されてをり新社員	赤瀬川至安
野遊の途中運転席に寝る	赤瀬川至安
仔猫と話す次男の声や昼下がり	荒井 類
元カノの面影浅蜷口ひらく	荒井 類
折りとらずカメラでとつている土筆	井口夏子
親子三代お彼岸の墓参り	井口夏子
スカート忘れステテコももひき春ファッション	池田亮二
お嬢さまも相撲通とて大あぐら	池田亮二
花のなき菜の花ロード機を逸す	石塚柚彩
みかん狩出口に迷ふ山となり	石塚柚彩
姦しき女三人春の旅	石塚柚彩
野焼され尻に火が付く地藏かな	伊藤浩睦
長閑なり扉も閉めぬごみ屋敷	伊藤浩睦
初花に興奮できる人の暇	伊藤浩睦
親と子のとぎれる会話土筆摘む	稲沢進一
あいさつはいつもおはよう桃の花	稲沢進一
犬小屋に犬は熟睡猫さかる	稲沢進一
北窓を開く眠気顔して本の山	稲葉純子
強風に想定外や飛花落花	稲葉純子
卒園式弾ける顔に涙顔	稲葉純子
受験生ノートとスマホ膝に乗せ	井野ひろみ
早々と散る花寂し地藏様	井野ひろみ
出店には掘り出し物や花は葉に	上山美穂
モーツァルトのドソミソ♪春雨のふりやうは	上山美穂
無人駅お花見してゐる小鳥たち	上山美穂
バスの旅野焼の煙横に見て	梅野光子
たんぽぽの綿毛ふうわり風に乗る	梅野光子
短夜は立ち入り禁止捜査二課	遠藤真太郎
蝉生る未来ヴィジョン研究所	遠藤真太郎
魚醤油を再生させる心太	遠藤真太郎
花筏の無免許運転逮捕無し	大林和代
いちばんきれいななめよこにみるさくら	大林和代
しだれざくら竹刀のごとく力あり	大林和代

春の海ダルマ夕陽を輝かす
 どじょうすくいの人登場花見酒
 今年また咲いてくれたよ胡蝶蘭
 再会のエスプレッソは花のした
 ふたつ光らせベランダのレモンの木
 我が膝にチワワ乗りくる春の昼
 武具飾る家を陣取る五人の子
 もてなす側に母の日の母なのに
 語り部の伝え伝えて乳母桜
 指さして彼方に見える八重桜
 坂の上筍伸びて萬翠荘
 蒲公英や老いて空飛ぶ珠となり
 九九に泣く八十八夜の意気地なし
 花見膳まずは乾杯シメに花
 日本に草の芽出ずる春が来た
 春ピクニックいいねしまなみ海道の
 WBCよりも春の選抜高校野球
 予想外の結末エイプリルフール
 錯乱の桜吹雪となりにけり
 空腹にミルクキャラメル木の芽風
 タンポポのポンと真中のストライク
 風光るオオタニさんとハイタッチ
 茎立ちて空へと渦の逆巻けり
 花曇ファンデーションの乗りきらず
 骨壺を持つ制服に飛花落花
 波に濡れ春雨に濡れ浜の砂
 合格の大書に笑顔はちきれむ
 子らを待つ過疎の鞆爺がのり
 太陽を丸呑みにして野火走る
 本命は補欠合格返返る
 大いなる空を切り取り卒業す
 菜の花や海に張り出す予讃線
 御供えのお下がり貰う花祭
 曖昧な記憶繕う朧月
 見て見ぬ振り上手な鳩に拍手
 指折ってる人折らない人日向ぼこ
 募金箱が段ボール心の音サクラの音

小笠原満喜恵
 小笠原満喜恵
 小笠原満喜恵
 岡田廣江
 岡田廣江
 岡田廣江
 加藤潤子
 加藤潤子
 門屋 定
 門屋 定
 門屋 定
 北熊紀生
 北熊紀生
 木村 浩
 金城正則
 金城正則
 金城正則
 久我正明
 久我正明
 久我正明
 工藤泰子
 工藤泰子
 工藤泰子
 桑田愛子
 桑田愛子
 桑田愛子
 壽命秀次
 壽命秀次
 白井道義
 白井道義
 白井道義
 鈴木和枝
 鈴木和枝
 鈴木和枝

見通しの立たぬ人生梅は咲く	高須賀溪山
この雛の趣歴史を重ねしや	高須賀溪山
植ゑし球根何だつたつけ？爺の春	高須賀溪山
花衣人形の私は同じ服	高田敏男
動物園の猿も肩ぐるま子どもの日	高田敏男
花吹雪風の力を借りてこそ	高田敏男
歌女と言はれるからとみみず鳴く	竹下和宏
涼しげな顔して乗せる口車	竹下和宏
米寿にも左団扇は夢のまま	竹下和宏
啓蟄やクンダリーニの昇華せり	田中 勇
蛇出づや己の毒を持って余し	田中 勇
屈辱の怒りのごとく地虫出づ	田中 勇
春昼のめぐりめくるや紙芝居	田中やすあき
老犬と散歩の果ての朝寝かな	田中やすあき
腰までの髪を散らせり春疾風	田中やすあき
カエルらが口開けて見る風の色	谷本 宴
春めきてベランダ掃除始めよか	谷本 宴
春休み話すは猫とアレクサと	谷本 宴
鶯と競ふ鳴き真似鐘三つ	田村米生
坂道の老いを押し上ぐ春一番	田村米生
告げるのは桜の散った公園で	田村米生
春眠を貪る部屋の真ん中で	月城花風
悪童も神妙に座す入学式	月城花風
青江三奈歌っています春の蠅	土屋泰山
青空に喇叭水仙ファンファーレ	土屋泰山
息を呑む頭の上に鴉の巣	土屋泰山
良い季節やと来たよねお水取	坪田節子
夕暮やホッと一息はなあかり	坪田節子
オーロラに夢はせ春の宵のこと	坪田節子
常節を楊枝でつつく伊豆の宿	長井知則
黄砂来る頭痛の種を蒔きながら	長井知則
水のんで顔を上げたるチューリップ	永易しのぶ
春の風みるためこの目閉ぢてゐる	永易しのぶ
花満ちてしじま深まりゆくごとし	名本敦子
残り鴨忘れた頃に鳴きはじむ	名本敦子
天網を躲しかはしてつばくらめ	西野周次
猫パンチ食らふ老犬春眠し	西野周次

国宝のお堂も脇役乳母桜

隣の竿気にしてメイクの緋鯉かな
 五類などにされてたまるかビアの意地
 春の夢か漫画か野球世界一
 ホーと吸ひホケキョと吐くや草青む
 アイブラックほどの眉欲し春の雨
 ちよぼちよぼと言われ高価な京扇子
 片頬を歪ませ笑ふ砕石山
 ハイウェイ春満月をふりきつて
 臃かなふすま絵の龍あくびして
 風光るマスクゴーグル花粉舞う
 流水や観光客がどっと寄せ
 水温む懐温む世も温む
 すかんぼや八十路の吾も元子ども
 黄水仙遊んでゐる子を見てゐる子
 女生徒の笑い転げて地虫出る
 たたら踏みやとと止まればつくしんぼ
 貼れるだけ貼って出かける春の旅
 さうざうし蝌蚪は頭に尾と足が
 巣籠や人の罅(ねぐら)も空中に
 大川の鷗舵とる花筏
 にこにこ顔の「へへへへしこじ」芝を焼く
 目と口と顎と雪解の言い訳と
 「ばっかのへ」と十回ゆうて雪丸げ
 春雷や夫婦げんかの納まりぬ
 咲き初める桜望むや赤信号
 継ぐ人のなき家なれど桜咲く
 足裏にひんやり紫雲英の波歩く
 囀のさらに早口屋根の鳥
 お花見のプラン立てたら散り始め
 難しい世が待ち受ける入学児
 ヤンキーの変身見事や新社員
 木蓮やいいえ私はマグノリア
 虫出しの雷に泣き虫騒ぎ出す
 花筏スワンボートで追いかける
 チューリップ八頭身のレビューなり
 山の神鮎釣り亭主を裁きけり

花岡直樹

花岡直樹

花岡直樹

浜田イツミ

浜田イツミ

浜田イツミ

久松久子

久松久子

日根野聖子

日根野聖子

細川岩男

細川岩男

細川岩男

ほりもとちか

ほりもとちか

南とんぼ

南とんぼ

南とんぼ

峰崎成規

峰崎成規

峰崎成規

椋本望生

椋本望生

椋本望生

村松道夫

村松道夫

村松道夫

森岡香代子

森岡香代子

八木 健

八木 健

八木 健

八塚一青

八塚一青

八塚一青

柳 紅生

柳 紅生

偉いなあ早寝早起きチューリップ

実を結ぶ果樹ばかり見る苗木市

高望みばかりするなよ春の猫

ふる里の流るる川や花日和

残る鴨つがいのこゑが池に溶け

まだ咲くわ吾遅咲きの八重桜

鳩の巣が母の新居や一周忌

コロナ明け花見弁当解禁す

ひと時がひと時ならぬ春の昼

春の夜の社長誕生物語

立てば底なりつつじの群生地

ブランコをベンチ代わりにスマホっ子

笑ふ膝いたわる杖や山笑ふ

たわいなき事語り合う日向ぼこ

この花は一輪咲けど二輪草

轉りにとりどりの色あるごとし

降り立てば桜吹雪の無人駅

まほろばの小気味よきかな花吹雪

ムツゴロウ程ではなけれどどぜう飼ふ

すかんぼを嚙んでまぶしき疎開の子

春眠や寝顔は平和のかたちして

麻痺の子の宇宙遊泳ふらここ押す

春耕や大地はその香解き放つ

余寒なほ小銭チャリンと滑り落つ

もしかして戦禍の涙春しぐれ

炭酸の泡のジュワジュワ夏蜜柑

柳村光寛

柳村光寛

柳村光寛

山岡純子

山岡純子

山岡純子

山下正純

山下正純

山下正純

山本 賜

山本 賜

横山洋子

横山洋子

横山洋子

吉川正紀子

吉川正紀子

吉川正紀子

吉原瑞雲

吉原瑞雲

吉原瑞雲

渡部美香

渡部美香

渡部美香

和田のり子

和田のり子

和田のり子